



今どきコラム－43

中国雑談

### 「中国製造 2025・ガイドライン」と三大投資領域

新華社傘下の『経済参考報』が5月11日、中国工業情報化省筋から得た情報として伝えたところによれば、現在、『中国製造 2025 省市別ガイドライン(2017年)』（以下、『指南』と略称）の修訂作業が進行中で、まもなく公開される。「中国製造 2025」とは、ドイツの「インダストリー4.0」や米国の「インダストリアル・インターネット」と並ぶ中国政府の主導する産業振興計画で、2049年の中華人民共和国建国100周年までに「世界の製造大国」としての地位を築くことを目標としている。

『指南』は『中国製造 2025』の重点任務と全国各地の資源状況を現行の産業発展に照らし、新規建設の重複を避け、各地の特性を生かして中国の製造業のモデル転換・レベルアップおよび産業構造の合理的な配置を促し、中国製造の新たな「地図」を確立していく。

同紙はまた、『指南』が「各省に三種類のそれぞれ異なった発展の方針、すなわち東部地域における先端設備製造への転換、中部地域における産業のレベルアップ、西部地域および旧工業区では立ち遅れた生産能力を整理し、新たな競争優位産業を育成してゆくべきことを示した」と伝えた。

『指南』は具体的に、江蘇、浙江、広東、山東など東部沿海省における製造業の先進地域が先端設備や戦略的新興産業などハイテク領域の発展を支援し、そのなかに先進的な軌道交通、海洋エンジニアリング設備、ハイテク船舶、新技術による電気設備、航空宇宙設備など『中国製造 2025』が示した十大重点発展領域が含まれている。これら以外では、東部沿海各省におけるロボット産業、付加製造(アディティブ・マニュファクチャリング)、インダストリアル・インターネットなどのスマート製造産業および「インターネット+」の関連産業の発展も支援すると示している。

安徽、河南、山西など中部内陸省については、エネルギー開削設備、石炭化工設備、農業機械設備、基本の生産技術にかかわる設備など従来からある潜在力を引き続け掘り出すほかに、新エネルギー、新素材、バイオ医薬、情報技術などの産業分野を将来の発展の柱に据えていくことを示した。これら各省に対しては、この他に製造業の産業構造最適化、



製造業全体におけるハイテク産業の比率を上げるよう求め、エネルギー消費量が多く、汚染物質の排出が多い従来の産業を徐々に廃止するよう要求している。

西部内陸地域と一部の旧工業区に対しては、立ち遅れた生産能力の整理以外に、将来性のある新興産業の育成に重点を置くことを求めている。たとえば、陝西、四川、重慶の省市に対しては情報技術、航空宇宙など将来性のある産業に重点をおき、現実を見据えながらクラウド・コンピューティング、ビッグデータやモノのインターネット（IoT）関連などの新興産業を模索していくことを求めている。

工業情報化省の計画に基づき、『指南』はとくに東北、西北地域などに残る旧工業基地に対して、外資投資産業目録の作成、外資への投資指導、沿海地域の産業を徐々にこれらの地域に移させるなど、産業構造のグレードアップを政策上で支援することを明らかにしている。

複数のマーケット機構や国家製造強国建設戦略諮詢委員会の予測によれば、「中国製造2025」戦略の推進にともない、産業構造のグレードアップは経済発展の持続的な推進力となり、関連する先端設備製造、スマート製造、戦略的新興産業などの領域は、1兆元（約16兆円）規模に成長することが期待される、とされている。

（『日系企業リーダー必読』編集長 陳言）